

## 指導員検定会 第3会場

会場 ムイカスノーリゾート

### A 班講評

#### 【パラレルターン小回り（不整地）】

バーン状況が湿雪でスキー操作はやり難い状況でしたが、落差を利用する中で回転弧とスピードをしっかりと制御しながらの滑りが出来ている点については高評価が出ました。

単に制御的にズレのみでの滑りでは厳しい点となりました。

指導者としての不整地での滑りを理解し、今後の指導に繋げて頂けるように願います。

#### 【パラレルターン大回り】

降雪の中で湿雪の検定となり難しいところがあったとは思いますが、バーン状況設定としてはよい状況で準備ができたと思います。

滑りの中でしっかりと落差を取り、スキーの角付けができ回転弧をうまく調整できた滑りには高評価が出たと思います。

指導者としての基本的な滑りに対しては理解をした滑りが見えたと思います。

ターンポジションの中で、内倒やローテーション等の操作が出てしまい、うまくコントロールができずにいる滑りの方もいましたが、ターンの運動要素を再確認していただければと思います。

#### 【基礎パラレルターン小回り】

斜面に対し制御的な要素が強くなり、ワイパー状の操作が出てしまう滑りが多く感じられました。

落差の利用とスキーコントロールを再度習得し、円い回転弧で滑れるよう習得をお願い致します。

### B 班講評

#### 【総合滑降】

バーンコンディションは良かったのですが湿雪のため、スピードが出にくい状況でした。カービングによる推進と回転弧のコントロールが後半までスピードを保つのが大きなポイントでした。雪質にあったポジショニングとなめらかなエッジングを意識し、減速要素の少ないリズム変化（構成）は必要不可欠となります。状況条件に適応した滑りを日ごろから意識して滑ると良いポイントが得られたのではないのでしょうか。

#### 【プルークボーゲン】

両スキーの内エッジが雪面にかかっていることがこの種目の大きなポイントです。常に舵取り中は内スキーが反ってしまっはけません。また、舵とり前半から最大傾斜線に向かうとき外スキーで雪面を強くとらえるタイミングと力の強弱で流れが止まらない運動、回転力を意識すると良いと思います。全体的にはこの種目を理解していて良い滑りをしていました。

#### 【横滑りの展開】

降雪と気温により雪質がどのように変化していくか心配されましたが、比較的気温が低かったこともあり非常に良いバーン状況となりました。全体的にはこの雪質に対応した良い滑りでした。若干ではありますが条件にある横滑りではなく斜滑降になってしまう方がいました。また、雪面抵抗を強めることができず切り替えがうまくできない方が目立ちましたので今一度確認していただければと思います。

## C班講評

### 【滑走プルークの展開】

パラレルターンの指導の展開、三本の矢のプルークターンから、パラレルスタンスへ導いていく過程を課題とした唯一の展開種目ですが、全体を通し一番理解不足であったと感じました。外スキーの雪面のとらえを強める事で内スキーの役割が変わっていく原因の表現が不足していました。

形態にとらわれる事なく、スタンスの変化が何故起こるのか、一連の動作の中での理解と表現を深めてください。

### 【シュテムターン】

ターン早期からのパラレルスタンスでの舵取りの部分については、とてもよく表現されていたと思います。

シュテム動作からの外スキーに荷重する時のポジションやタイミングの習熟度を更に上げて頂ければより良くなると感じました。